

東海経済レポート（2014年11月）

～底割れは回避するも、景気回復の動きは緩慢～

経済調査室（名古屋）

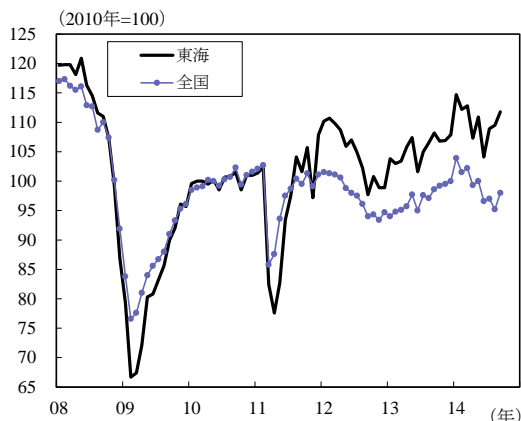
1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、9月に前月比+2.1%と3ヵ月連続で増加。業種別では、輸送機械が全体を牽引。
- ✓ 設備投資については、その先行指標とされる金属工作機械の国内受注額が、9月に前年比+1.6%と14ヵ月連続でプラス。
- ✓ 輸出額（円ベース）は、10月に前月比+3.4%と2ヵ月連続で増加。
- ✓ 雇用関連では、9月の愛知県の有効求人倍率が1.48倍と、3ヵ月連続で低下。他県は岐阜県と静岡県が横ばい、三重県が上昇。
- ✓ 個人消費では、9月の百貨店・スーパー・コンビニの小売主要3業態の販売が前年比+4.3%と5ヵ月連続でプラス。9月の新車販売台数は前年比▲5.5%と、3ヵ月連続でマイナス。
- ✓ 住宅着工は、9月に年率換算で8.2万戸と、4月以来の水準まで回復。

2. 当面の注目点・リスク要因

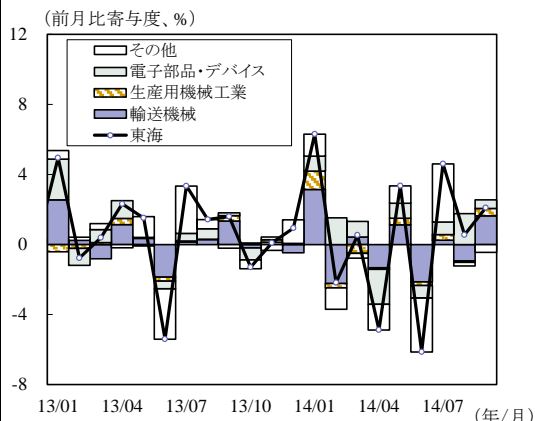
- ✓ 10月末、日銀は追加金融緩和を決定した。日銀によれば、消費税率引き上げ後の需要面での弱めの動きや原油価格の大幅下落等が物価の下押し圧力として働いている状況を受け、デフレマインドの転換が遅延するリスクの顕在化を未然に防ぐこと、が背景であった。この決定を受け、株価が大幅に上昇するとともに、円安が加速した。
- ✓ それに引き続き、安倍首相は11月18日、2015年10月の消費増税の延期とその信を問う衆議院解散・総選挙を表明した。7-9月期のGDP統計で景気の弱さが確認され、このまま再増税に踏み切ればデフレ脱却が頓挫しかねないと判断したものの。政府としては同時に、財政健全化の道筋を早急にしっかりと示す必要がある。
- ✓ 東海経済にとっての当面の注目点は、①業績改善の大きい企業・産業を起点として賃金・給与等の上昇率が高まったり、国内設備投資が拡大することなどを通じて、その他産業や家計へも好影響が波及していくかどうか、②円安のデメリットを受けやすい中小企業等の回復が早期に実現するかどうか、などと考える。

生産① 9月の鉱工業生産指数は前月比+2.1%と3ヵ月連続で増加。



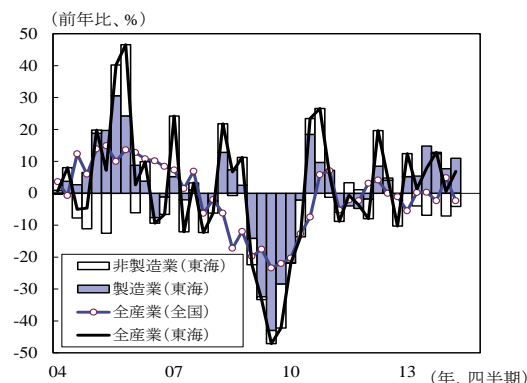
(注)1. 季節調整値。
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

生産② 業種別では、輸送機械が全体を牽引。



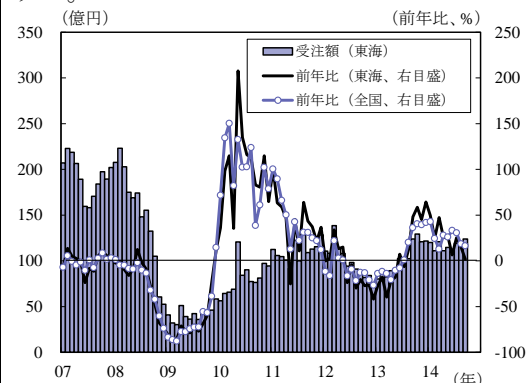
(注)1. 季節調整値。
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

設備投資 4-6月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+6.8%と、再加速。



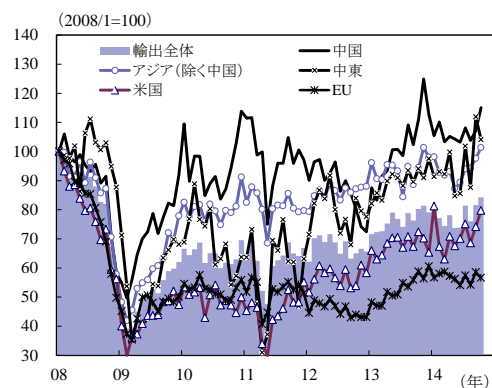
(注)1. 東海は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。
2. 資本金10億円以上の企業を対象。
(資料)東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

金属工作機械受注(国内) 設備投資の先行指標とされる金属工作機械の国内受注額は、9月に前年比+1.6%と14ヵ月連続でプラス。



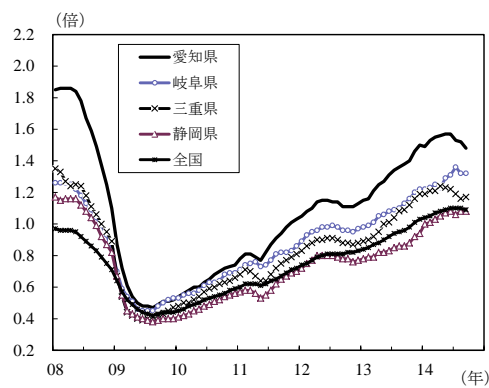
(注)1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社。
2. 受注額は当室による季節調整値。
(資料)中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

輸出 10月の輸出額(円ベース)は、前月比+3.4%と2ヵ月連続で増加。



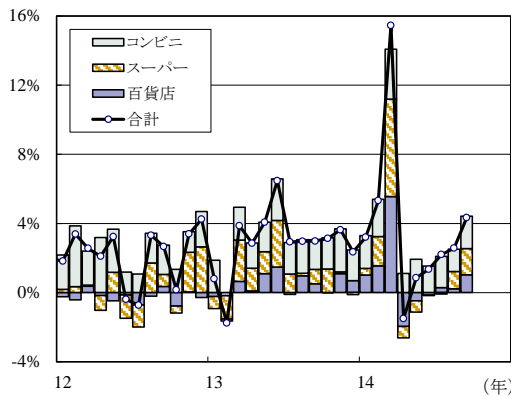
(注)1. 当室による季節調整値。
2. 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料)名古屋税関「管内貿易概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

雇用 9月の愛知県の有効求人倍率は1.48倍と、3ヵ月連続で低下。他県は岐阜県と静岡県が横ばい、三重県が上昇。



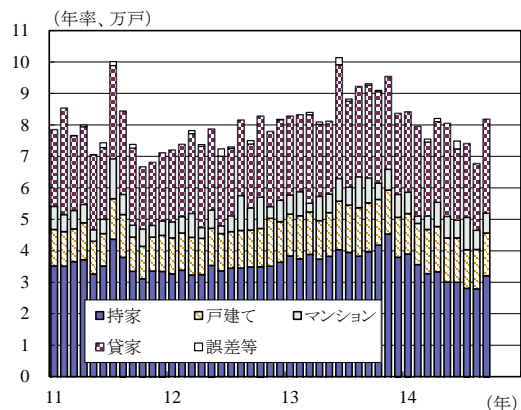
(注)1. 有効求人倍率=有効求人数÷有効求職者数。
2. 季節調整値。
(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

個人消費 9月の小売主要3業態の販売は、前年比+4.3%と5ヵ月連続でプラス。



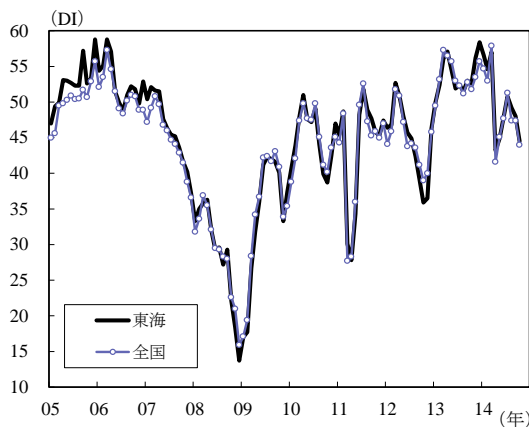
(注)1. 愛知、岐阜、三重、富山、石川の5県。
2. 当室による季節調整値。
(資料)中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

住宅投資 9月の住宅着工戸数は年率換算で8.2万戸と、4月以来の水準まで回復。



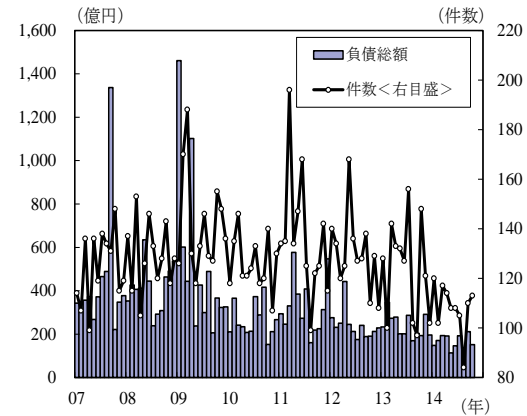
(注)愛知、岐阜、三重の3県。季節調整値は当室試算。
(資料)国土交通省「建築着工統計」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

景気ウォッチャー調査 10月の景気現状判断DIは44.5と、3ヵ月連続で低下。



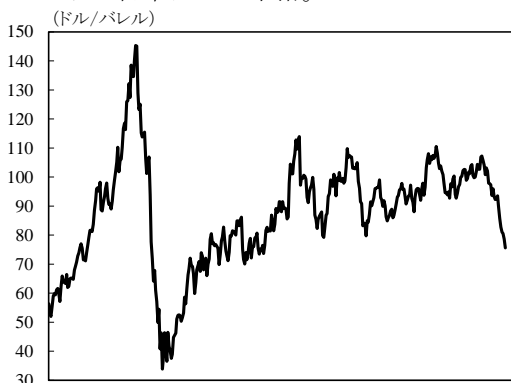
(資料)内閣府「景気ウォッチャー調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

倒産件数 10月の企業倒産件数は113件と、前年比▲23.6%の減少。負債総額も同▲21.5%と減少。



(注)愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

原油価格 中東情勢の緊張緩和やシェールオイルの増産、新興国需要の減速が長期化するとの見通し等を背景に、WTI先物は1バレル70ドル台半ばまで下落。



(注)原油価格はWTI先物。
(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

円相場・株価 株式は、日銀による追加緩和や、米国経済が力強さを増してきたことなどを受け、一時2007年以來の高値となる17,500円台まで上昇。円相場は、日米金利差が拡大するとの観測などを背景に、円安基調。



(資料)Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H26.11.25 富田 潤 jiyun_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。